

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 85

平成28年

案内 平成28年度全国大会

研究発表会申し込み

発行 日本庭園学会(会長 鈴木久男)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
ガーデンデザイン研究室
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

平成28年度 日本庭園学会全国大会 (足利大会) 開催案内

平成28年度日本庭園学会全国大会(足利大会)を、下記のとおり開催いたします。会員のみなさまの大会への参加を、心よりお待ち申し上げます。

記

<日程・内容・会場>

■日程

平成28年6月11日(土)～平成28年6月12日(日)

■内容

6/11: 研究発表会及び総会、

日本庭園学会賞受賞者講演

6/12: 現地検討会及びシンポジウム・文化財庭園の調査・

整備・維持・管理

■会場

研究発表会・総会及びシンポジウム: 足利商工会議所
(足利市通3丁目2757)

現地検討会: 史跡権崎寺跡ほか足利市内の庭園3カ所

情報交換会: レストラン ぼるか(足利市柳原町862-1)

<参加費>

学会員・足利庭園文化研究会会員: 2,000円

非会員: 4,000円

※学生は、会員の場合1000円、非会員の場合は2000円とします。

※大会参加費については、1日のみの参加でも上記金額を徴収します。

資料代: 1,000円(大会参加者にはセットでお渡しするが、別途資料のみを購入する場合に必要な金額)

情報交換会(6/11): 5,000円

<問い合わせ>

栗野 隆(日本庭園学会全国大会運営担当、東京農業大学)

電話: 03-5477-2428 メール: t3awano@nodai.ac.jp

平成28年度 日本庭園学会全国大会現地検討会・シンポジウム

<日時>:平成28年6月12日(日)

<会場>:足利商工会議所4階友愛ホール

■大会テーマ「文化財庭園の調査・整備・維持・管理」

趣旨文:近年、全国の文化財庭園で調査や整備、修理が進められている。また、日常の維持、管理も欠かせない。本大会では、庭園の悉皆調査、史跡樺崎寺跡庭園の保存整備を行っている足利市の事例をもとに、文化財庭園の調査・整備・維持・管理について考察する。これらを実施する方法や留意すべき点等、先進地の事例をもとに検討したい。

◆現地検討会

- | | | |
|-------------|----------------------|--------------------------|
| 08:30～09:00 | 現地検討会受付 | バス料金として参加費をいただきます。(金額未定) |
| | 集合場所: | 足利商工会議所駐車場 |
| 09:00～12:00 | 新藤家庭園・巖華園・史跡樺崎寺跡庭園見学 | (案内・解説者・・・外丸、足立、板橋) |
| | 休憩 | |
| 12:30～13:00 | シンポジウム受付 | 総合司会:企画委員会大会運営委員担当 |
| 13:00～13:05 | 開会挨拶:鈴木久男会長 | |
| 13:05～13:10 | 趣旨説明:大澤伸啓実行委員長 | |
| 13:10～13:40 | 足利の庭園調査と管理 | 外丸 実(足利庭園文化研究会会長) |
| 13:40～14:10 | 史跡樺崎寺跡庭園の調査と整備 | 足立佳代(日本庭園学会理事) |
| 14:10～14:40 | 京都における庭園の発掘調査 | 鈴木久男(日本庭園学会会長) |
| 14:40～15:10 | 京都における文化財庭園の管理 | 加藤友規(日本庭園学会理事) |
| 15:10～15:40 | 文化財庭園の整備 | 小野健吉(日本庭園学会理事) |
| 15:40～16:10 | 保存管理計画の作成方法 | 今江秀史(日本庭園学会理事) |
| 16:20～16:50 | 総合討論 | 司会進行 大澤伸啓 |
| 16:50～17:00 | 閉会挨拶 | |
| 17:00 | 解散 | |

平成28年度全国大会 研究発表会での発表の申込みについて

平成28年度の研究発表会で発表を希望する方は、下記の要領でお願いいたします。

発表時間は、ひとりあたり30分とし、発表25分、質疑応答5分を予定しています(変更する場合があります)。また、発表にはPCプロジェクターの使用が可能です。

記

◆発表申込み期限

平成28年3月21日(月)

◆申込み方法

発表者氏名・所属・題名・連絡先を明記し、発表概要(200字程度)を添付のうえ下記の「発表申込先」までお送りください。原則的にはEメールとしますが、郵送もしくはFAXでもかまいません。

◆発表要旨提出期限

平成28年5月6日(金)(本文版下原稿の郵送期限)
(Eメールでの送付の場合は、当日17:00までとします)

◆執筆要領

全発表者分を研究発表要旨集として印刷し、当日参加者に配布します。原稿はそのまま要旨集の版下とします。そのため、ワープロを使用しての作成をお願いします。分量は、A4判で2ページもしくは4ページ、6ページ、8ページとします(奇数ページでの原稿は、受け付けませんのでご注意ください)。

原稿の体裁は、庭園学会HPよりダウンロードしてください。

◆発表の申込み先・発表要旨の提出先

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科
全国大会運営委員 栗野 隆
電話 03-5477-2428
FAX 03-5477-2625
Eメール t3awano@nodai.ac.jp

報告

平成27年度日本庭園学会関西大会
現地検討会

白木 朝乃

(京都造形芸術大学大学院修士課程)

11月7日(土)、「水瀬神宮燈心亭とその庭、水瀬離宮推定地探訪」というテーマで現地検討会が行われ、大山崎町歴史資料館の企画展「河陽離宮と水無瀬離宮」の見学から始まった。

昨年大阪府島本町で小野薬品工業研究棟の建設に伴う試掘調査によって、後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮の関連施設の遺跡が発見された。それに伴い大山崎町歴史資料館で企画された展示は考古遺物を中心としており、館長の福島克彦氏の解説を聞き、途中参加者からの質問に答えて頂きながらの見学となった。そうして水無瀬離宮の知識を深めてから水無瀬神宮へ移動となった。水無瀬神宮はもともと離宮のあった場所であり、後鳥羽上皇をおまつりした神宮である。西国街道を歩いて水無瀬神宮へと向かう途中の田畑が広がる場所において、水無瀬離宮の新御所と本御所をつなぐ道の推定地について討論しあう場面も見られた。

水無瀬神宮参拝後、燈心亭を見学した。燈心亭は後水尾上皇遺愛の茶室と説明があり、各間の天井の材質や張り方を変えたり、障子の腰板の水引き結びや土間底に竹や丸太、削木を交互に使用していたりと凝った意匠が所々に見られた。茶室前の庭は現在、あまり整備されておらず、年に何度か手入れを行っているとのことだった。

燈心亭見学の後、西浦門前遺跡に向かった。遺跡は長い急な坂の上であり、小野薬品工業の研究棟建設現場を望みながら解説をうかがった。西浦門前遺跡は標高10メートルの高台にあり、健保4年(1216)に洪水の影響によって被害を受け、その後山上に建て直した上御所の遺跡だと推定されている。そこでは『明月記』に記された水無瀬離宮の庭園と非常に似ているという庭園遺構も見つかっており、遣水や滝口、池、景石が発見されている。この遺構は島本町の歴史を考えるうえで非常に重要な遺跡と考えられ、一部を歴史文化資料館の敷地内に移築復元をされており、最後にその遺構を見学した。この遺構の復元には移築プロジェクトとして企画され、町民が積極的に参加しており、復

元されたばかりの庭園遺構を見ることができた。

今回は島本町民の水無瀬離宮や歴史への熱い思いが感じられた現地検討会となった。今後復元された庭園遺構を活用し、水無瀬離宮が広く知られる存在となっていくことを願う。



公開シンポジウム 島本町立歴史文化資料館にて



日本庭園学会奨励賞授賞式

報告

平成27年度日本庭園学会関西大会 見学会レポート

関西 剛康

(南九州大学環境園芸学部・大学院)

平成27年度日本庭園学会関西大会が11月7・8日に開催された。その7日午前中に、京都府乙訓郡大山崎町と隣接する大阪府三島郡島本町の2都市を巡る現地検討会「水無瀬神宮燈心亭とその庭、水無瀬離宮推定地探訪」が行われた。

現地検討会は阪急電鉄大山崎駅改札口に集合して、9時30分に仲隆裕・関西支部長の開会挨拶で始まり、最初に向かったのが大山崎町歴史資料館であった。到着した本資料館では当日、企画展「河陽離宮と水無瀬離宮」が開催されており、考古遺物や関連資料等と共に、国宝「紙本著色後鳥羽天皇像」や重要文化財『大山崎離宮八幡宮文書』も展示されていた。福島克彦館長から、これまでの離宮跡の発掘調査により、遺跡の範囲や特徴が推定できるようになってきたとの最新の研究調査に基づく説明を受け、多くの知見が得られた。

資料館を出て西国街道を西に15分程歩いて島本町に入り、水無瀬川を越えてと左に折れると、鬱蒼とした社叢林で覆われた水無瀬神宮に着いた。神宮宮司様より、承久3年(1221)の承久の変により隠岐に流され、そこで崩御された後鳥羽上皇の遺詔により、水無瀬離宮跡に「御影堂」が建立されたのが起源等との説明を受けた。

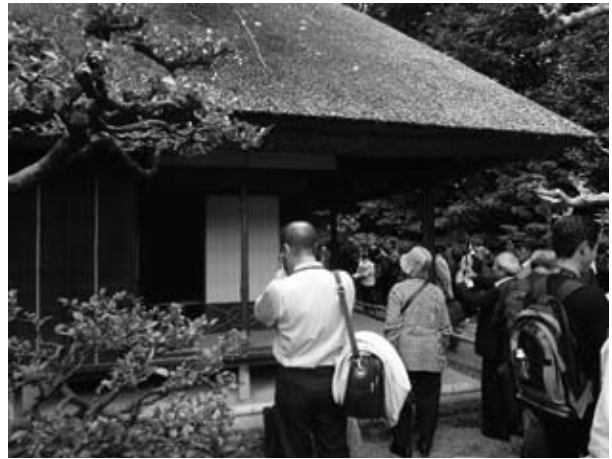
さらに神社の奥にある、通常は非公開である重要文化財の燈心亭の茶室に案内された。庭園中央に佇む燈心亭は、まちの喧噪から隔離されたまさに市中の山居であった。江戸初期の寛永年間(1624~1644)頃に、御所より移築され、後水尾上皇より下賜されたと伝えられており、三畳台目・炉台目切・水屋四畳および畳が敷かれた入側を有し、とても開放的な数奇屋風書院の茶室であった。この江戸初期における公家好みの雅な茶室は、床の間や違い棚、障子等にも随所に繊細な意匠が見られ、特に茶席の格天井はヤマブキ・トクサ・ヨシ・ハギ等の10種類余りの草木が張られており目を見張った。

次に歩いて、水無瀬離宮と関連する広瀬遺跡ならびに西浦門前遺跡である小野薬品工業株式会社を訪れた。すで

に発掘調査は昨年度に完了しており、新研究棟建設がなされた後で遺跡はなかったが、この場所に宮殿等があったとされる当時の雰囲気を感じることは出来た。

そのまま歩いて、午後からの公開シンポジウム会場となる島本町歴史文化資料館に到着した。この資料館の敷地内には、西浦門前遺跡で後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮の庭園跡と考えられている遺構の一部が、島本町民の協力のもとここに移築復元されていた。移築庭園は、遣水より注がれた流水が、上の池から滝組を経て下の池へと流れる箇所を切り取ったものであった。水無瀬離宮の庭園を訪れた藤原定家が『明月記』に記した風景と似ているとされており、移築されたことにより我々が実物を目にすることが出来たことへの感動と、それが元の遺跡現場で保存できない問題提起とを参加者に示した。

13世紀頃に後鳥羽上皇は、風光明媚な場所に水無瀬離宮を造営された。今回、現在も当時の雰囲気が漂うこの地を巡れ、遺構等を目にしたことで、当時の離宮の全体像に、思いを巡らした現地検討会であった。



平成 27 年度関西大会現地検討会（水無瀬神宮の燈心亭）



平成 27 年度関西大会現地検討会（西浦門前遺跡からの移築庭園）

寄稿

縄文探検につれてって！

-安芸 早穂子-



第 84 回 始まりの庭

2015 年 11 月 23 日

幼いときの私は祖父の屋敷うちだけで暮らす子どもでした。その屋敷には、いくつかの区画に分かれた庭があって、それぞれが違う趣を持って造られていたのを覚えています。徒弟の境遇から身を起こし、戦後と高度成長期を駆け抜けて財を成した祖父にとって、その屋敷と庭は特別の意味を持っていたと思いますが、小さな初孫はそんなことにはお構いなく、大世帯の大人たちの間で、苔を踏んで怒られたり、鯉にやる麩を全部食べてあきれられたりしていました。四方を囲む高いモルタルの塀は、むしろ大人たちの干渉を受けない解放された自由な世界を保証するものでした。小さな子どもにとって、それは十分に広大で

神秘的な冒険世界でもありました。私は一人で毎日、飽くことなく隅々までその庭を巡り、様々な創造にふけて遊んだものです。

思い返してみるとその時分から、私は苔と水がある場所に妙に心を奪われました。

私にとって一番退屈な庭は、丸い池のある芝生の庭でした。植え込みと池は全て石垣できっちりと人工的に区切られ、平地に芝生があるだけの西洋風の庭には、私は全く関心を持ってませんでした。それに比べて、門から母屋の玄関にいたる石畳は、緩やかに曲がる小道に点在する竹や木犀、ヤツデや千両万両などが、薄暗い隅々から浮かびあがり、際立つ緑や赤い実が幾重にも重なり合い、立体的な奥行きをもって、しんと佇んでいるさまが、なんともいえずミステリアスで大好きな場所でした。

特に、苔とシダとトクサで覆われた小さな躰の辺りは、私が最も好きな場所でした。

そこから苔むした庭が始まり、飛び石の横に美しい細工の石の亀なども置いてありました。今思えば玄関横の部屋は茶室であったのだと気がつきますが、景色に作られた植え込みと、躰が配された、なにか日常で無い空間を、私は幼心にも感じていたのだと思います。

玄関の横には数寄屋造りの小さな塀があって、私が最も

心奪われていた庭は、その塀の向こうに隠されていました。仏壇がある座敷と、その庭を囲むように廊下でつながった客間との間に、松や石灯笼を配する苔むした中庭があったのでした。

絵本で見た雀のお宿の入り口のような、数寄屋の塀と門で、日常の庭とは隔離されていたその庭には、おかまい無しに苔を踏む子どもは入れてもらえませんでした。いつも居間から見える、生活の真ん中の景色でありながら、その庭はガラス越しにしか見ることを許されない、触れることのできない別世界でした。

本当にまれに、大人と一緒にのときに限って入ることが許された時、苔を踏まないようにと注意されながら歩く深い緑の土地、大きな石や根を張った立派な枝振りの木々の景色は、日常の日々からいっそう遠くにある異世界のようにでした。

その庭をいかにも静寂に、異質に見せていたものは、壊すことが許されない完成された秩序とでもいうべきもの、だったように思います。テレビの音や喋り声に溢れたこちらの世界と窓のガラス一枚を隔てて、緑深い苔に包まれた、ゆるぎないもうひとつの世界が、いつもそこにあったことを私は鮮やかに思い出します。

その庭にあった秩序は、世界を形づくる秩序でもあったかと今は思います。塀に囲まれた祖父の庭は、世界観という奥行きを持った庭文化と私のファーストコンタクトの場だったと思うのです。それを認識するには、私はまだまだ幼すぎる子どもでしたが、美しく静かに、整然と必然を兼ね備えてある景色と、そこに秘められた世界の「見立て」を楽しむことは、むしろ大人よりずっとしていたはずでした。

だから、子どもには、真っ平らな遊び場ばかりを与えてはいけないと思うのです。たとえ入ることを禁じても、日本の文化が最高の技量を尽くした庭という世界で、子どもは想像力を自由に羽ばたかせて遊ぶことができるのです。そこで培われた記憶は、芸術的、理知的秩序のある、植物、水、鉱物の地上世界の記憶となって 人の心を豊かに裏打ちしてゆくと私は思います。

居間から見る中庭は、隣り合わせに同じ時間が流れながら、全く別の次元で息づく命のインスタレーションでもあり、美しい世界の小さなひな形でもありました。日常の喧騒と同じ時間を分け合い、同じ場所にありながら、透明なガラス一枚を隔てて二



つの違う時空がともに存在するというものの、それは発見だったかもしれません。

やがて、画学生上がりの私は、狩猟採集民の民族学的研究と縄文時代の考古学的研究の二足の草鞋をはく小山修三先生と出会いました。私が初めて描いた縄文人の家族は、オーストラリアの先住民アボリジニの一家をモデルにしていました。アボリジニは、ドリーミングという思想をもち、夢と現実を区別することなく重層的にとらえる文化を持つことを、その時私は学びました。アボリジニたちが言うドリーミングとは、幼い私が知っていたあの静寂の異空間、居間から眺めた祖父の中庭と似たものだったかもしれないと、ふと思います。



Copyright Sahoko Aki All Rights Reserved

安芸 早穂子 HomepageGallery 「精霊の縄文トリップ」

平成28年度 関西大会の日程の案内

平成28年度の関西大会は、11月5日（土）・6日（日）の日程で京都市内で実施されることが決定した。現地見学会は京都市右京区の嵐山、研究発表会は、京都駅近辺を会場とする予定となっている。

遠方からのご来訪については、京都駅周辺をご検討願いたい。大会の案内は、次号の学会ニュースで告知いたします。

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしく願います。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしく願います。

協力者：白木朝乃、関西剛康、安芸早穂子
山本千晶（植彌加藤造園株式会社）

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-1

京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342